

2003年度関西まちづくり賞は、審査の結果、2003年10月3日～19日にわたって大阪市内の尻無川右岸（大阪ドーム南公園）で、川の上に浮かぶカフェを通して、きもちよい水辺空間を提供し、多くの市民に川沿いの空間の魅力を再認識してもらうための取組みである「社会実験『リバーカフェSUNSET37』」を選考しました。

### 社会実験『リバーカフェ SUNSET 37』

都市大阪創生研究会 IKINA 水辺チーム

飯田 忠篤（近鉄不動産株式会社）

泉 英明（株式会社環境整備センター）

高見 恒祐（株式会社IAO 竹田設計）

田中 利光（財団法人大阪市都市工学情報センター）

宮本 圭太郎（京阪電気鉄道株式会社）

森山 秀二（株式会社IAO 竹田設計）

湯谷 里恵（近鉄不動産株式会社）



2004年4月20日、関西支部総会にて表彰式及びプレゼンテーションを行いました。

当日は、申請者である「都市大阪創生研究会」に加え、本事業の実施に際して共同実施した地元団体「川をいかしたまちづくり協議会」の方もお見えになりプレゼンテーションで発表されました。（写真右）

### 表彰式及びプレゼンテーションの概要



業績の紹介

## 1. 概要

『街にこんな空間がほしい。』『こうなったらもっと街は魅力的になる』という提案はこれまでにたくさん行われ続けてきました。でもなかなか実現しません。

そこで都市大阪創生研究会（※1）の IKINA 水辺グループ（※2）のメンバーは、大阪の水辺がもっと魅力的になる具体的提案を掲げ、自分たちが自分たちの手で実現することを前提に研究してみました。何が壁になっているのか、どうすれば実現に近づくのか、そしてそれは社会に受け入れられるのか、法律や資金面も含めた具体的な検討を行いました。

そしてそれは実現しました。

それが川の上に浮かぶカフェ『rivercafe SUNSET37』です。

大阪は川の水運によって発展した都市であり豊かな水辺が残っていますが、従来河川法や水上交通等の制約から現代ではその資源が十分に活かされていません。そこで大阪の水辺の魅力を創出し、多くの方に体感してもらう装置として、川の上に浮かぶカフェを企画しました。

実現に際しては、現行の法律の範囲内で合法的に実施することを原則としました。また作業については我々の水辺に対する想いが直接伝わるよう、船や周辺の飾りつけから、カフェの運営、調理、接客などにいたるまで、できる限り外部に委託せず、志を共にする仲間を募り、楽しみながら「手づくり」で実施することにこだわりました。

結果として幅広いたくさんの方々からボランティアとして協力していただくことができました。また地元の方をはじめとするほんとうにたくさんの方々から大阪の川辺の魅力を体感していただくことができました。



広報用のチラシより



『リバーカフェ SUNSET37』の夕景

※1 都市大阪創生研究会は平成10年大阪大学鳴海教授の呼びかけにより、市民的な支持を得ながら行政と民間のパートナーシップによって新しい時代に向けての都市のリノベーションを実現するため、大阪の未来と、そこへ至るべき道を考える場として設立されました。  
(参加団体：大阪ガス、関西電力、近鉄不動産、京阪電鉄、住友商事、都市基盤整備公団、NTT西日本、阪神電鉄、三菱商事、三菱地所、コンサルタント、大阪市 など)

※2 これまで研究会では毎年『場所』を中心としたテーマを設定してワーキンググループをつくり、さまざまな提案をおこなってきましたが、今年度は提案を少しでも実現に近づけること自体を目標に、横断的な4つのグループ

IKINA水辺	(魅力ある水辺空間づくり)
R研究班	(都市ストックの魅力的な再生)
仮設検討グループ	(仮設の利用による魅力的な空間づくり)
BOW	(魅力あるまちのブランドイメージづくり)

をつくり活動しています。

## 2. 目的

このプロジェクトの目的は、気持ちよい水辺空間を提供することによって、たくさんの市民に川沿いの空間の魅力を再認識してもらうのと同時に、地元団体と一体となった運営形式の試行を通じて、これからの水辺利用、公共空間の利活用の道筋を提案し、水都大阪再生のムーブメントに寄与していくことです。そしてこれをきっかけに水都大阪再生の活動の輪がさらに広がることを願っています。

## 3. 計画と実施

(1) 主催について IKINA 水辺グループの7名と地元団体である『川を生かしたまちづくり協議会』の有志でリバーカフェ実行委員会をつくり主催しました。あくまでも地元との共催にこだわって計画しました。

主催	: リバーカフェ実行委員会
共催	: 都市大阪創生研究会、川を生かしたまちづくり協議会
協力	: 大阪ドームシティ開発協議会、昭陽汽船株、土佐堀研究会 KPプランニング
後援	: 大阪府、大阪市

(2) 場所について 数箇所の検討ののち、水辺の魅力を感じてもらえる環境と、台船に係留できる可能性のある場所、地元の協力が得られるという3つの条件から、尻無川右岸(西区大阪ドーム南公園)での開催となりました。

(3) 開催日 最も水辺を心地よく感じられると思われる季節で、他のまちづくりイベントと共同開催も視野に入れて、10月3日(金)~19日(日)としました。

(4) 営業時間 集客に関しては夜間のほうが有利であることが予想されましたが魅力的な屋間の水辺のシーンも示したかったので12:00~21:00を営業時間としました。なお屋外での営業のため雨天時は休業としました。

(5) 許認可 河川管理者、公園管理者に対して空間を一時使用及び占用することの許可、当該場所は港湾区域内であったため港湾管理者との係留方法や安全航行確保などの協議が必要となりました。特に河川管理者とは、一時使用及び占用の条件となる公共性の判断について協議しました。

(6) メニュー 保健所の許可がとれるという条件から、コーヒー・紅茶・ビール・ワインなどの各種ドリンクとともに、ポークステーキやフライドポテトなど8種類ほどのフードメニューを考え提供しました。価格に関しては運営の混乱をさけるため一律500円としました。

(7) スタッフ 研究会のメンバーをはじめ自分たちの友人など、主旨に賛同してくれるボランティアを集め運営しました。結果として約130人の方々が協力してくれました。

- (8) 係留方法 河川管理者である府と海上保安監部の双方が納得できる係留方法で、なおかつ限られた時間と予算におさまる方法を探し求め、独自の係留ビットを制作/設置してそこに2隻の台船を係留しました。
- (9) 内装 手すりの設置から店舗用テントや客席まで基本的にすべて自分たちでデザインし、開放的で大人がゆっくりと楽しめるおしゃれな空間にこだわりました。
- (10) トイレ・ゴミ 仮設トイレをリースで借りて陸側に設置しました。また混雑時の補助用トイレとして隣接する大阪ガスの施設内トイレの使用許可をいただきました。また、カフェのゴミ処分については隣接するパドゥーの協力を、水面のゴミ清掃については清掃船の協力を得ました。
- (11) 電気 大量に必要な夜間は発電機でまかないました。発電機は主旨に賛同いただいた企業からお借りすることができました。昼間に使用する少量の電力に関しては大阪市の協力によって公園の電力をわけていただくことができました。
- (12) 照明 照明会社のデザイン協力を受け、自分たちで制作した照明器具と無償でお借りすることができた器具などでライトアップし、夜も魅力的な空間演出をおこないました。
- (13) 音楽 音響機器を無償でお借りし、昼間はCDによる音楽を楽しんでいただきました。
- (14) ライブ演奏 主旨を説明し、賛同いただいたバンド等の方にボランティアで生演奏していただきました。結果として夜間はほぼ毎日ライブ演奏をしていただくことができました。
- (15) PR 安定的な運営とPRをかねて前売り券を発行しました。許可申請や設営などに追われたため、十分な事前広報活動ができませんでしたが、大阪市政だよりや市のパンフレット、情報誌への掲載、開催直前には市制記者クラブへの情報提供をおこなうことで、開催直後の新聞・テレビ報道などをしていただきました。その後は口コミなどでも広がり、来客はどんどん増えていきました。
- (16) 安全対策 安全マニュアルを作成して客の水難事故などの防止につとめました。営業時間中は常時警備員（プロ）を配置して監視し、特にお子さんの安全に留意するとともに、万一の場合に備え保険に加入しました。
- (17) 夜間警備 食物を扱う施設であるため、スタッフが毎晩現地に常駐し、不審者の侵入や盗難等の防止につとめました。
- (18) 資金と経費 研究会からはある程度補助をもらえる前提でスタートしましたが、自分たちが満足のいく施設や運営をするためにはそれだけでは足りないことが明らかでしたので、来客が少なればかなり赤字がでるというリスクはありました。しかし自分たちで負担してもやりたいという覚悟が多く、賛同者の支援やボランティアの協力につながり、経費の削減と来客者数の増大によって結果的には事業費のほぼすべてを営業収入でまかなうことができました。



#### 4. 実施の様様



1. もとは何もない、川と公園でした



2. 台船2隻を係留してみんなで店づくり



3. 手作りカフェの誕生



4. 屋間はゆったりいい景色を楽しめます



5. 夜はライブ演奏もあり賑わいました



6. 日没時はひとときワムードがありました



7. 注文は公園側の店舗テントで受けます



8. 料理もボランティアスタッフで



9. 雨が降ったあとは大変でした



10. 地元の人たちに愛されて



11. 犬のお客さまも常連に



12. 船で来られるお客さんは注目の的



13. フラメンコのパフォーマンスもあったり



14. 最終日は特別メニューで皆さんとパーティ



15. 撤収日の様子。17日間を終え元の姿に…。